

(様式第9)

三大病医 第 85 号
平成19年10月 4日

厚生労働大臣 殿

三重大学医学部附属病院長
内 田 淳

三重大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成18年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	20 人
--------	------

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
→ 別紙参照(様式第13)
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常勤	非常勤	合 計	職 種	員数	職 種	員数	
医 師	170人	113人	283.0人	看護業務補助者	62人	診療エックス線技師	0人	
歯 科 医 師	8人	11人	19人	理学療法士	4人	臨 床 検 査	臨床検査技師	47人
薬 剤 師	19人	13人	31.2人	作業療法士	1人		衛生検査技師	1人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	3人		そ の 他	3人
助 産 師	16人	1人	16.4人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人	
看 護 師	320人	80人	375.1人	臨床工学技士	11人	医療社会事業従事者	4人	
准 看 護 師	6人	4人	8.5人	栄 養 士	0人	その他の技術員	12人	
歯科衛生士	0人	5人	4.0人	歯 科 技 工 士	2人	事 務 職 員	131人	
管理栄養士	5人	0人	5.0人	診療放射線技師	26人	そ の 他 の 職 員	17人	

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	535.5人	13.4人	548.9人
1日当たり平均外来患者数	1064.6人	80.7人	1145.3人
1日当たり平均調剤数	1,024.3剤		

9 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況、医療に係る安全管理を行う部門の設置状況

→ 別紙参照（様式第13の2）

- 1 0 病院内の患者からの相談に適切に応じる体制の確保状況、医療に係る安全管理のための指針の整備状況
→ 別紙参照（様式第13の2）
- 1 1 安全管理の体制確保のための委員会の開催状況、安全管理の体制確保のための職員研修の開催状況
→ 別紙参照（様式第13の2）
- 1 2 医療機関内における事故報告等の整理 → 別紙参照（様式第13の2）

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 高度先進医療の承認の有無及び取扱い患者数

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・顔面骨又は頭蓋骨の親血的移動術	有・無	0人
・培養細胞による先天性代謝異常診断	有・無	0人
・溶血性貧血症の病因解析及び遺伝子解析診断法	有・無	0人
・経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法	有・無	0人
・人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・無	0人
・人工中耳	有・無	0人
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	有・無	0人
・性腺機能不全の早期診断法	有・無	0人
・経皮的レーザー椎間板切除術(内視鏡下を含む)	有・無	0人
・造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	有・無	0人
・スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有・無	0人
・血小板膜糖蛋白異常症の病型及び病因診断	有・無	0人
・焦点式高エネルギー超音波療法	有・無	0人
・オープンMRを用いた腰椎椎間板ヘルニアに対するレーザーによる経皮的椎間板減圧術	有・無	0人
・肺腫瘍のCTガイド下気管支鏡検査	有・無	0人
・先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・無	1人
・筋緊張性ジストロフィー症のDNA診断	有・無	0人
・SDI法による抗がん剤感受性試験	有・無	0人
・内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	有・無	0人
・栄養障害型表皮水疱症のDNA診断	有・無	0人
・家族性アミロイドーシスのDNA診断	有・無	0人
・三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・無	0人
・マス・スペクトロメトリーによる家族性アミロイドーシスの診断	有・無	0人
・抗がん剤感受性試験	有・無	0人
・子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断	有・無	0人
・不整脈疾患における遺伝子診断	有・無	0人
・腹腔鏡下肝切除去	有・無	0人
・画像支援ナビゲーション手術	有・無	0人
・悪性腫瘍に対する粒子線治療	有・無	0人
・エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	有・無	0人
・成長障害のDNA診断	有・無	0人
・生体部分肺移植術	有・無	0人
・CT透視ガイド下生検	有・無	0人
・門脈圧充進症に対する経頸静脈的肝内開脈大循環短絡術	有・無	0人
・乳房漏存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・無	0人
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・無	0人

高度先進医療の種類（医科）	承認	取扱い患者数
・声帯内自家側頭筋膜移植術	有・ <input type="radio"/>	0人
・腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	有・ <input type="radio"/>	0人
・骨髄細胞移植による血管新生療法	有・ <input type="radio"/>	0人
・ミトコンドリア病のDNA診断	有・ <input type="radio"/>	0人
・悪性黒色腫、乳癌におけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有・ <input type="radio"/>	0人
・鏡視下肩峰下腔除圧術	有・ <input type="radio"/>	0人
・神経変性疾患のDNA診断	有・ <input type="radio"/>	0人
・脊髄性筋萎縮症のDNA診断	有・ <input type="radio"/>	0人
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有・ <input type="radio"/>	0人
・固形がんに対する重粒子線治療	有・ <input type="radio"/>	0人
・脊髄腫瘍に対する腫瘍脊髄骨全摘術	有・ <input type="radio"/>	0人
・カフェイン併用化学療法	有・ <input type="radio"/>	0人
・ ³¹ P-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲診断	有・ <input type="radio"/>	0人
・特発性男性不妊症・性腺機能不全症の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/>	0人
・胎児尿路・羊水腔シャント術	有・ <input type="radio"/>	0人
・遺伝性コプロポルフィリン症のDNA診断	有・ <input type="radio"/>	0人
・固形腫瘍（神経芽腫）のRNA診断	有・ <input type="radio"/>	0人
・硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有・ <input type="radio"/>	0人
・重症BCG副反応症例における遺伝子診断	有・ <input type="radio"/>	0人
・自家液体窒素処理骨による骨軟部腫瘍切除後欠損の再建	有・ <input type="radio"/>	0人
・膵腫瘍に対する腹腔鏡補助下膵切除術	有・ <input type="radio"/>	0人
・低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/>	0人
・悪性脳腫瘍に対する抗がん剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・ <input type="radio"/>	0人
・高発がん性遺伝子性皮膚疾患のDNA診断	有・ <input type="radio"/>	0人
・筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療	有・ <input type="radio"/>	0人
・Q熱診断における血清抗体価測定および病原体遺伝子診断	有・ <input type="radio"/>	0人
・エキシマレーザー冠動脈形成術	有・ <input type="radio"/>	0人
・活性化Tリンパ球移入療法	有・ <input type="radio"/>	0人
・抗がん剤感受性(CD-DST法)	有・ <input type="radio"/>	0人
・胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・ <input type="radio"/>	0人
・家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/>	0人
・腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・ <input type="radio"/>	0人
・膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有・ <input type="radio"/>	0人
・中枢神経白質形成異常症の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/>	0人
・三次元再構築画像による股関節疾患の診断と治療	有・ <input type="radio"/>	0人
・樹状細胞と腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	有・ <input type="radio"/>	0人
・内視鏡下甲状腺がん手術	有・ <input type="radio"/>	0人
・骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有・ <input type="radio"/>	0人

高度先進医療の種類（医科）	承認	取扱い患者数
・泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血細胞移植	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・頸椎椎間板ヘルニアに対する「レーザー」による経皮的椎間板減圧術（CT透視法）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・活性化血小板の検出	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・早期胃癌に対する腹腔下センチネルリンパ節検索	<input checked="" type="radio"/> 有・無	11人
・ケラチン病の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・末梢血幹細胞（CD34陽性細胞に限る）による血管再生治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・末梢血単核球移植による血管再生治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・副甲状腺内活性型ビタミンD（アナログ）直接注入療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・グルタミン受容体自己抗体による自己免疫性神経疾患の診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・腹腔鏡下広汎子宮全摘出術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤物吻合血管レーザー焼灼術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・自己腫瘍（組織）を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・自己腫瘍（組織）及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人

高度先進医療の種類（歯科）	承認	取扱い患者数
・インプラント義歯	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・顎顔面補綴	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・顎関節症の補綴学的治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・歯周組織再生誘導法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・接着ブリッジによる欠損補綴並びに動揺歯固定	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・光学印象採得による陶材歯冠修復法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・エックス線透視下非観血的唾石摘出術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・レーザー応用によるう蝕除去・スケーリングの無痛療法	<input checked="" type="radio"/> 有・無	1人
・顎関節鏡視下レーザー手術併用による円板縫合固定術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・顎関節脱臼内視鏡下手術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・耳鼻いんこう科領域の機能障害を伴った顎関節症に対する中耳伝音系を指標とした顎位決定法	有・ <input type="radio"/> 無	0人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
・高周波切除器を用いた子宮筋腫核出術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・自動吻合器を用いた直腸粘膜脱又は内痔核手術（PPH）	<input checked="" type="radio"/> 有・無	16人
・画像支援ナビゲーションによる膝靭帯再建手術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・凍結保存同種組織を用いた外科治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・強度変調放射線治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・胎児心超音波検査	有・ <input type="radio"/> 無	0人

先 進 医 療 の 種 類	承 認	取 扱 い 患 者 数
・内視鏡下小切開泌尿器手術	①有・無	4人
・画像支援ナビゲーションによる内視鏡下鼻内副鼻腔手術	有・②無	0人
・インプラント義歯	①有・無	3人
・顎顔面補綴	有・②無	0人
・人工中耳	有・②無	0人
・歯周組織再生誘導法	有・②無	0人
・抗がん剤感受性試験	有・②無	0人
・腹腔鏡下肝切除術	有・②無	0人
・生体部分肺移植術	有・②無	0人
・活性化血小板の検出	有・②無	0人
・末梢血幹細胞による血管再生治療	有・②無	0人
・カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有・②無	0人
・先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有・②無	0人
・超音波骨折治療法	有・②無	0人
・眼底三次元画像解析	有・②無	0人
・CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテラメイト [®] のヘリコバクター・ヒ [®] ロ菌療法	有・②無	0人
・非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	有・②無	0人
・X線CT診断装置及び手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有・②無	0人
・定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・②無	0人

2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	69人	・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	31人
・多発性硬化症	45人	・ウェゲナー肉芽腫症	2人
・重症筋無力症	122人	・特発性拡張型(うつ血型)心筋症	34人
・全身性エリテマトーデス	427人	・多系統萎縮症	0人
・スモン	3人	・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	6人
・再生不良性貧血	56人	・膿疱性乾癬	9人
・サルコイドーシス	85人	・広範脊柱管狭窄症	1人
・筋萎縮性側索硬化症	55人	・原発性胆汁性肝硬変	90人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	241人	・重症急性膵炎	9人
・特発性血小板減少性紫斑病	90人	・特発性大腿骨頭壊死症	1人
・結節性動脈周囲炎	16人	・混合性結合組織病	31人
・潰瘍性大腸炎	185人	・原発性免疫不全症候群	3人
・大動脈炎症候群	18人	・特発性間質性肺炎	15人
・ピュルガー病	0人	・網膜色素変性症	45人
・天疱瘡	58人	・プリオン病	0人
・脊髄小脳変性症	52人	・原発性肺高血圧症	9人
・クローン病	60人	・神経繊維腫症	10人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	9人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・悪性関節リウマチ	11人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	2人
・パーキンソン病関連疾患	247人	・特発性慢性肺血栓塞栓症(肺高血圧型)	0人
・アミロイドーシス	16人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	0人
・後縦靭帯骨化症	42人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・ハンチントン病	0人		

3 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。		
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度		1週間に	1回程度(3種類の検討会)
		1か月に	2回程度(1種類の検討会)
剖検の状況	剖検症例数	15例	剖検率 5.8%

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績 (平成18年度)

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元
多価性がんワクチン	珠玖 洋	遺伝子・免疫細胞治療学	21,100	補 科学研究費補助金
PDE関連シグナル・遺伝子療法—Melanomaを中心に—	田川 俊郎	口腔・顎顔面外科学	1,400	補 科学研究費補助金
癌治療の分子標的としてのプリン代謝酵素MTAP欠損の診断アルゴリズムの確立	登 勉	臨床検査医学	3,600	補 科学研究費補助金
老化を促進する酸化損傷タンパク質の機能プロテオミクス解析と病的老化予防法の開発	及川 伸二	環境分子医学	6,000	補 科学研究費補助金
小児癌細胞における細胞死誘導耐性化機序の解明とその克服手段の開発	駒田 美弘	小児発達医学	2,400	補 科学研究費補助金
細胞治療を応用した大動脈疾患に対する新しい血管内治療法の臨床応用のための研究	下野 高嗣	胸部心臓血管外科学	2,900	補 科学研究費補助金
胎生期の栄養障害に起因する生活習慣病発症機序の総合的研究とその発症予防法の開発	佐川 典正	生殖病態生理学	7,500	補 科学研究費補助金
2光子レーザー顕微鏡生体内観察による中枢神経損傷後再生の確証提示と治療法の開発	溝口 明	神経再生医学・細胞情報学	7,500	補 科学研究費補助金
脳動脈瘤血管内治療に用いる新規デバイスの開発研究	滝 和郎	脳神経外科学	5,300	補 科学研究費補助金
がんの骨転移に対する包括的分子生物学治療	内田 淳正	腫瘍集学治療学	9,200	補 科学研究費補助金
環境エストロゲンによる生殖器系発がんの機構解明とリスク評価	村田真理子	環境分子医学	1,700	補 科学研究費補助金
テネシシンCを分子標的とした心筋梗塞後リモデリング治療法開発のための基礎的研究	吉田 恭子 (今中恭子)	修復再生病理学	1,300	補 科学研究費補助金
活性化プロテインCによる骨髄由来線維芽細胞起因性炎症性肺疾患の抑制効果の解析	Gabazza Esteban	生体防御医学	1,600	補 科学研究費補助金
Acid-sensing受容体抑制によるがん骨転移痛の制御	若林 弘樹	腫瘍集学治療学	1,500	補 科学研究費補助金
眼科低侵襲手術開発を目的とした術中前眼部構造動的变化の研究	宇治 幸隆	眼科学	500	補 科学研究費補助金
自閉症診療のための遺伝的因子及び生化学的バイオマーカー検索のための基礎的研究	成田 正明	発生再生医学	2,200	補 科学研究費補助金
アトピー性皮膚炎に対する標的変異型サイトカイン療法の有効性の検討	水谷 仁	皮膚医学・皮膚外科学	2,400	補 科学研究費補助金
障害心筋におけるエネルギー代謝異常と心筋バイアビリテイ：核医学とMRIによる検討	竹田 寛	非侵襲診断治療学	1,100	補 科学研究費補助金
亜鉛代謝からみた膵広範切除後脂肪肝発症機序の解明と治療	伊佐地秀司	肝胆脾・乳腺外科学	1,900	補 科学研究費補助金
組織組み替え実験による前立腺肥大症の発症メカニズム解析	有馬 公伸	腎泌尿器外科学	1,900	補 科学研究費補助金
プロテインCインヒビターによる腎細胞の癌化及び腫瘍内血管新生抑制機序の解析	林 辰弥	分子病態学	1,900	補 科学研究費補助金
上気道のリモデリングの特異性とその制御	竹内 万彦	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	1,600	補 科学研究費補助金
環境化学物質の制御性T細胞機能抑制を介したアレルギー疾患増悪作用の検討	加藤 琢磨	生体防御医学	1,700	補 科学研究費補助金
ヒト悪性黒色腫でのシグナル・遺伝子療法としてのphosphodiesterase	成田 素	口腔・顎顔面外科学	3,200	補 科学研究費補助金
血管障害性疾患に対する新規なリスク分子・標的治療分子の探索研究	岡本 貴行	分子病態学	1,700	補 科学研究費補助金
組織組み替え実験による前立腺特異抗原の機能解析	石井健一朗	腎泌尿器外科学	1,600	補 科学研究費補助金
新規筋ジストロフィーモデル生物の創生と治療薬探索研究	伊藤 芳幸	皮膚医学・皮膚外科学	2,500	補 科学研究費補助金
皮膚腫瘍における細胞分裂制御キナーゼの発現異常に関する研究	横山 智哉	皮膚科	3,200	補 科学研究費補助金
腎尿路系腫瘍におけるメチル化DNAの腫瘍マーカーとしての意義	登 勉	臨床検査医学	800	補 科学研究費補助金
タッチパネル式コンピュータによる高学歴専門職集団の痴呆の早期スクリーニング	葛原 茂樹	神経病態内科学	600	補 科学研究費補助金
活性化プロテインCによる実験的肺高血圧治療	丸山 一男	麻酔集中治療学	800	補 科学研究費補助金

研 究 課 題 名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元
胎生期の低栄養状態が乳幼児期のエネルギー代謝調節機構におよぼす影響の検討	佐川 典正	生殖病態生理学	1,700	補 科学研究費補助金
口腔癌でのPDE関連診断法の確立ーオーダーメイド治療に向かつてー	田川 俊郎	口腔・顎顔面外科学	900	補 科学研究費補助金
血管内皮細胞を炎症性障害から保護する人工ペプチドの開発とその標的分子の探索	鈴木 宏治	分子病態学	1,700	補 科学研究費補助金
骨軟部腫瘍の肺転移に対する遺伝子治療	内田 淳正	腫瘍集学治療学	2,500	補 科学研究費補助金
DIF・PDEシグナルをターゲットとした悪性黒色腫細胞に対する分子標的薬の開発	村田 琢	歯科口腔外科	7,900	補 科学研究費補助金
肺癌に対するラジオ波焼灼術：臨床的有用性の検討と焼灼範囲拡大のための基礎的研究	山門亨一郎	放射線治療科	700	補 科学研究費補助金
有機カチオントランスポータのプロモータ解析に基づく薬物腎排泄の評価・予測系構築	奥田 真弘	薬剤部	1,000	補 科学研究費補助金
動脈硬化バイオメディエーターとしてのC反応性蛋白質ーその分子機序と臨床的意義ー	伊藤 正明	循環器内科学	1,300	補 科学研究費補助金
KIT遺伝子異常が白血病におよぼす影響とその分子標的療法の確立	西井 一浩	血液内科	1,300	補 科学研究費補助金
ヒトB細胞のマクロファージへのLineage転換：ホジキンリンパ腫の病態との関連	片山 直之	造血病態内科学	1,500	補 科学研究費補助金
トポイソメラーゼI阻害薬の腎排泄機構の解明に基づく個別化投与設計法の基盤構築	水谷 秀樹	薬剤部	2,900	補 科学研究費補助金
網羅的プロテオミクスによる慢性肝疾患の病態解析と分子標的の探索	白木 克哉	消化器・肝臓内科	2,500	補 科学研究費補助金
シー型肝炎ウイルスを介した肝細胞における鉄沈着調節メカニズムの解明	小林 由直	消化器・肝臓内科	2,300	補 科学研究費補助金
プロテインC制御系因子の併用療法による急性肺傷害の抑制効果の解析	田口 修	呼吸器内科	1,800	補 科学研究費補助金
肝線維化への造血幹細胞の関与：単一細胞移植法を用いた肝星細胞起源の解明	樹屋 正浩	輸血部	2,000	補 科学研究費補助金
冠動脈MRAと心筋パーフュージョンMRI定量解析による冠動脈疾患の総合的評価	佐久間 肇	中央放射線部	1,800	補 科学研究費補助金
細胞外マトリックス蛋白に着目した脳血管攣縮の病態解明と新しい治療法の開発	鈴木 秀謙	救急部	1,300	補 科学研究費補助金
スギ花粉症の新規治療法・舌下免疫療法の臨床評価と効果判定法の研究	湯田 厚司	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,000	補 科学研究費補助金
微小環境の変化に伴う椎間板性疼痛の発現とそのメカニズムの解明	笠井 裕一	整形外科	1,900	補 科学研究費補助金
血液を用いたアルツハイマー病診断	伊藤 伸朗	神経内科	900	補 科学研究費補助金
CD4T細胞を利用した肝癌排除（テララーメド治療をめざして）	杉本 和史	腎臓内科	1,200	補 科学研究費補助金
肺高血圧血管病変に関わるNF-κB活性化を介した炎症性メディエーターの役割	澤田 博文	小児科	1,200	補 科学研究費補助金
ヒト悪性黒色腫細胞でのDIF・PDE1シグナルの解明	清水 香澄	歯科口腔外科	1,000	補 科学研究費補助金
右室同期不全を有する慢性肺高血圧症に対する心臓再同期療法の効果	土肥 薫	循環器内科	2,800	補 科学研究費補助金
尋常性乾癬、皮膚浸潤炎症細胞の解析と治療効果の解明	山中 恵一	皮膚科	2,800	補 科学研究費補助金
抗コリン作用を持つ薬剤は統合失調症患者の老年変化を促進するか	伊藤 雅之	精神科神経科	2,500	補 科学研究費補助金
類似症例検索に基づくマンモグラフィ診断支援システムの開発と地域医療への展開	中山 良平	中央放射線部	1,600	補 科学研究費補助金
前立腺癌の発症・進展に関与するメチル化によって制御される遺伝子の検索	山田 泰司	腎泌尿器外科	1,900	補 科学研究費補助金
胎児発育における抗酸化系機構の意義ーチオレドキシン過剰発現マウスを用いた検討	梅川 孝	周産母子センター	1,700	補 科学研究費補助金
造血細胞移植患者に対する、免疫抑制を惹起しない麻疹ワクチンの開発	大森 雄介	小児科	800	補 科学研究費補助金
妊娠時インスリン抵抗性の機序に関する分子生物学的研究ー酸化ストレスの関与	杉山 隆	周産母子センター	2,000	補 科学研究費補助金
計	62件		161,000	

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Kidney Int	Comparison between Valsartan and Valsartan Plus Cilnidipine in Type II Diabetics with Normo- and Microalbuminuria.	Katayama K	腎臓内科
Int J Mol Med	Cellular Apoptosis Susceptibility Protein and Proliferation in Human Hepatocellular Carcinoma.	Shiraki K	肝臓内科
Circ J	Beneficial Acute Effects of Rho-Kinase Inhibitor in Patients with Pulmonary Arterial Hypertension.	Ishikura K	救急部
Circ J	Impact of Nicorandil to Prevent Reperfusion Injury in Patients with Acute Myocardial Infarction - Sigmart Multicenter Angioplasty Revascularization Trial (SMART).	Ota S	循環器内科
Liver Int	Cytoplasmic p21 (WAF1/CIP1) Expression in Human Hepatocellular Carcinomas.	Shiraki K	肝臓内科
J Thromb Thrombolysis	Risk Factors of Acute Pulmonary Thromboembolism in Japanese Patients Hospitalized for Medical Illness: Results of a Multicenter Registry in the Japanese Society of Pulmonary Embolism Research.	Nakamura M	循環器内科
J Am Soc Echocardiogr	Effects of Radial Left Ventricular Dyssynchrony on Cardiac Performance Using Quantitative Tissue Doppler Radial Strain Imaging.	Dohi K	循環器内科
Eur J Vasc Endovasc Surg	Pulse-spray Pharmacomechanical Thrombolysis for Proximal Deep Vein Thrombosis.	Yamada N	循環器内科
Clin Gastroenterol Hepatol	Multiple Microhamartomas of the Biliary Tract System: Von Meyenburg Complexes	Shiraki K	肝臓内科
血栓と循環	肺血栓塞栓症 治療と戦略 (t-PAも含む)	山田 典一	肝臓内科
Intern Med	Early tumor regression following severe lung injury after allogeneic stem cell transplantation in a patient with renal	Hoshino N	血液腫瘍内科
Leukemia	Clinical and prognostic significance of cytokine receptor expression in adult acute lymphoblastic leukemia: interleukin-2 receptor alpha-chain predicts a poor prognosis.	Nakase K	血液腫瘍内科
Cancer Detect Prev	Contrast-enhanced ultrasound examination of lymph nodes in different types of lymphoma.	Nakase K	血液腫瘍内科
Leuk Res	Granulocytic sarcoma of mesentery in acute myeloid leukemia with CBFβ/MYH11 fusion gene but not inv(16) chromosome: case report and review of literature.	Fujieda A	血液腫瘍内科
Br J Haematol	Differential cell division history between neutrophils and macrophages in their development from granulocyte-macrophage progenitors.	Sugimoto Y	血液腫瘍内科
Leuk Res	Detection of the CBFβ/MYH11 fusion gene in de novo acute myeloid leukemia (AML): a single-institution study of 224 Japanese AML patients.	Monma F	血液腫瘍内科
Int J Hematol	Bilateral osteonecrosis of the head of the femur during treatment with retinoic acid in a young patient with acute promyelocytic leukemia.	Sakakura M	血液腫瘍内科
Thromb Res	Reduced Cd4+Cd25+ T cells in patients with idiopathic thrombocytopenic purpura.	Sakakura M	血液腫瘍内科
Cancer Sci	Notch ligand Delta-1 differentially modulates the effects of gp130 activation on interleukin-6 receptor alpha-positive and -negative human hematopoietic progenitors.	Yamamura K	血液腫瘍内科
Br J Haematol	Pleiotropic role of histone deacetylases in the regulation of human adult erythropoiesis.	Yamamura K	血液腫瘍内科
Int J Hematol	Selective blast cell reduction in elderly patients with acute myeloid leukemia secondary to myelodysplastic syndrome treated with methylprednisolone.	Suzuki K	血液腫瘍内科
Int J Oncol	IL-3 can not replace GM-CSF in inducing human monocytes to differentiate into Langerhans cells.	Shubasaki T	血液腫瘍内科
Int J Hematol	Development of mixed-type autoimmune hemolytic anemia and Evans' syndrome following chicken pox infection in a case of low-titer cold agglutinin disease.	Tanaka Y	血液腫瘍内科
Int J Hematol	Clinicopathologic significance of loss of CD19 expression in diffuse large B-cell lymphoma.	Kimura M	血液腫瘍内科
Intern Med	De novo CD5-positive diffuse large B-cell lymphoma of the temporal bone presenting with an external auditory canal tumor.	Ogawa S	血液腫瘍内科
J Clin Invest	In vivo antigen delivery by a Salmonella typhimurium type III secretion system for therapeutic cancer vaccines.	Nishikawa H	血液腫瘍内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Clin Cancer Res	HER2-specific T-cell immune responses in patients vaccinated with truncated HER2 protein complexed with nanogels of cholesteryl pullulan.	Kitano S	血液腫瘍内科
J Immunol Methods	Generation of peptide-specific CD8+ T cells by phytohemagglutinin-stimulated antigen-mRNA-transduced CD4+ T cells.	Naota H	血液腫瘍内科
Shock	Proteinase 3 expression on neutrophil membranes from patients with infectious disease.	Matsumoto T	血液腫瘍内科
Thromb Res	Decreased ADAMTS13 activity in plasma from patients with thrombotic thrombocytopenic purpura.	Kobayashi T	血液腫瘍内科
Clin Appl Thromb Hemost	Frequency of abnormal biphasic aPTT clot waveforms in patients with underlying disorders associated with disseminated intravascular coagulation.	Matsumoto T	血液腫瘍内科
Virus Res	Immunological equivalence between mouse brain-derived and Vero cell-derived Japanese encephalitis vaccines.	Abe M	神経内科
Acta Neuropathol	Frontotemporal lobar degeneration with ubiquitin pathology: an autopsy case presenting with semantic dementia and upper motor neuron signs with a clinical course of 19 years.	Yokota O	神経内科
Eur Neurol	An adult case of megalencephalic leukoencephalopathy with subcortical cysts with S93L mutation in MLC1 gene: a case report and diffusion MRI.	Titoh N	神経内科
AJNR Am J Neuroradiol	Positron-emission tomography of brain regions activated by recognition of familiar music.	Satoh M	神経内科
J Neurol Neurosurg Psychiatry	Left hemianomia of musical symbols caused by callosal infarction.	Satoh M	神経内科
Biopharm Drug Dispos	Clinical evaluation of plasma free phenytoin measurement and factors influencing its protein binding.	Iwamoto T	神経内科
運動障害	強迫的・反復性書字・描画行為がみられたパーキンソン病の一例	山崎 正貞	神経内科
神経治療学	Guillain-Barre症候群における痛み-27症例の検討-	谷口 彰	神経内科
臨床神経学	厚生労働省特定疾患治療研究事業臨床調査個人票の旧申請病名（パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症）の臨床診断名に関する調査	成田 有吾	神経内科
No To Shinkei	[Correlation of the cognitive function and the duration of the illness with the regional cerebral blood flow in the patients with Parkinson's disease: objective evaluation using stereotactic extraction estimation analysis in 123I-IMP SPECT]	Sakai T	神経内科
Rinsho Shinkeigaku	[Diffusion-weighted magnetic resonance imagings at the acute stage in two patients with spectacular shrinking deficit due to cardioembolic stroke]	Sakai T	神経内科
Movement Disorders	Cyclogram analysis of frozen gait in parkinsonism.	Naito Y	神経内科
Amtotrophic Lateral Sclerosis	Test-retest and inter-examiner reliability of automated motor unit number estimation (MUNE).	Naito Y	神経内科
神経治療学	運動ニューロン疾患の治療と進歩	内藤 寛	神経内科
Ophthalmology	The prevalence of pigmentary retinopathy in the amyotrophic lateral sclerosis / parkinsonism-dementia complex focus in the Kii prninsula of Japan.	Kpkubo Y	神経内科
Liver Transplant	成人生体肝移植症例における経時的なKICG測定はグラフト肝機能をリアルタイムに予測し、かつ正確な予後予測を可能とする。(KICG value, a reliable real-time estimator of graft function, accurately predicts outcomes in adult living-donor liver transplantation.)	伊佐地秀司	肝胆膵外科
J Hepato-Biliary-Pan	肝細胞癌の外科治療における生体肝移植療法の意義 (The role of living-donor liver transplantation in surgical treatment for hepatocellular carcinoma)	伊佐地秀司	肝胆膵外科
Clin Transplant	生体肝右葉グラフトの前区域の肝再生における静脈再建の意義 (Impact of venous drainage on regeneration of the anterior segment of right living-related liver grafts)	伊佐地秀司	肝胆膵外科
Clin Transplant	ABO血液型不適合生体肝移植における術前CD-20抗体点滴療法の実験と問題点 (Experiences and problems pre-operative anti-CD20 monoclonal antibody infusion therapy with splenectomy and plasma exchange for ABO-incompatible living-donor liver transplantation)	白井 正信	肝胆膵外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Am J Surg	乳房温存手術後の乳房下溝線部脂肪筋膜弁を用いた乳房形成術の有 用性Usefulness of breast-volume replacement using an inframammary adipofascial flap after breast-conservation therapy)	花村 典子	乳腺内分泌外 科
J Pediatr Surg	Teratoid Wilms' tumor: a case report with literature review.	井上 幹大	周産母子セン ター
J Laparoendosc Adv Surg Tech A	Laparoscopic intragastric surgery using GelPort.	登内 仁	先進医療外科
Pediatr Surg Int	Efficacy of postoperative elective ventilatory support for leakage protection in primary anastomosis of congenital esophageal atresia.	内田 恵一	小児外科
Surg Laparosc Endosc Percutan Tech	Hemidouble stapling for esophagogastrostomy during laparoscopically assisted proximal gastrectomy.	登内 仁	先進医療外科
Cancer Chemother Pharmacol	The range of optimal concentration and mechanisms of paclitaxel in radio-enhancement in gastrointestinal cancer cell lines.	間山 裕二	消化管外科
Dis Colon Rectum	Combined measurement of hepatocyte growth factor and carcinoembryonic antigen as a prognostic marker for patients with dukes a and B colorectal cancer: results of a five-year study.	三木 誓雄	消化管外科
J Pediatr Surg	The significance of serum hepatocyte growth factor levels in planning follow-up of postoperative jaundice-free patients with biliary atresia.	内田 恵一	小児外科
Oncol Rep	Irinotecan cytotoxicity does not necessarily depend on the UGT1A1 polymorphism but on fluoropyrimidine: a molecular case report.	井上 靖浩	消化管外科
Oncol Rep	The optimal schedule for 5-fluorouracil radiosensitization in colon cancer cell lines.	尾嶋 英紀	消化管外科
J Gastroenterol	Schedule-dependent cytotoxicity of 5-fluorouracil and irinotecan in a colon cancer cell line.	井上 靖浩	消化管外科
Pediatr Cardiol	Pediatric cardiac remodeling after cardiac resynchronization therapy.	高林 新	心臓血管外科
Cardiovasc Res	Tenascin-C synthesized in both donor grafts and recipients accelerates artery graft stenosis.	澤田 康裕	心臓血管外科
Ann Thorac Surg	Toll-like receptor 4 mediates lung ischemia-reperfusion injury.	島本 亮	心臓血管外科
Circulation	Development of a new method for endovascular aortic repair: combination therapy of cell transplantation and stent grafts with a drug delivery system.	梶本 政樹	心臓血管外科
Circulation	Inhibition of Toll-like receptor 4 with eritoran attenuates myocardial ischemia-reperfusion injury.	島本 亮	心臓血管外科
Spine	The expression of NG2 proteoglycan in the human intervertebral disc.	明田 浩司	整形外科
Arch Orthop Trauma Surg	Effect of tourniquet application on deep vein thrombosis after total knee arthroplasty.	福田 亜紀	整形外科
Acta Orthop	Cobalt-chromium head wear following revision hip arthroplasty performed after ceramic fracture—a case report.	長谷川正裕	整形外科
Phys Ther	A new evaluation method for lumbar spinal instability: passive lumbar extension test.	笠井 裕一	整形外科
Knee	Dislocation of posterior-stabilized mobile-bearing knee prosthesis. A case report.	長谷川正裕	整形外科
J Hand Surg	Surgical treatment for a congenitally stiff metacarpophalangeal joint of the small finger: report of four cases.	辻井 雅也	整形外科
Spine	Suicide during hospitalization in patients with spinal disease.	笠井 裕一	整形外科
J Bone Joint Surg Br	Alumina ceramic-on-ceramic total hip replacement with a layered acetabular component.	長谷川正裕	整形外科
Int Orthop	Clinical profile of long-term survivors of breast or thyroid cancer with metastatic spinal tumours.	笠井 裕一	整形外科
Plast Reconstr Surg	Regenerating axons emerge far proximal to the coaptation site in end-to-side nerve coaptation without a perineurial window using a T-shaped chamber.	明田 浩司	整形外科
Histol Histopathol	Involvement of tenascin-C and PG-M/versican in flexor tenosynovial pathology of idiopathic carpal tunnel syndrome.	辻井 雅也	整形外科
Eur Spine J	Pre-and postoperative psychological characteristics in mothers of patients with idiopathic scoliosis.	笠井 裕一	整形外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
産婦人科の実際	双胎間輸血症候群に対して胎児鏡下胎盤吻合血管レーザー焼灼術を施行した2症例	村林 奈緒	産婦人科
臨床婦人科産科	早産における子宮頸管熟化の機序	佐川 典正	産婦人科
HORMONE FRONTIER GYNECOLOGY	妊娠とレプチン	佐川 典正	産婦人科
日本産科婦人科学 会誌	胎児の長期予後を考慮した妊娠中の栄養管理	佐川 典正	産婦人科
Retina	Triamcinolone acetonide remaining on the fovea after successful macular hole closure.	佐宗 幹夫	眼科
Transplantation	Development of a dendritic cell vaccine against measles for patients following hematopoietic cell transplantation.	梨田 裕志	小児科
Transplantation	Evidence of graft-versus-tumor effect in refractory metastatic neuroblastoma.	平山 雅治	小児科
J Eur Acad Dermatol Venereol	Pilonidal sinus of the supra-auricle area.	Yokoyama T	皮膚科
J Eur Acad Dermatol Venereol	Rippled-pattern sebaceoma with an immunohistochemical study of cytokeratins.	Kurokawa I	皮膚科
J Eur Acad Dermatol Venereol	Eccrine spiradenoma: co-expression of cytokeratin and smooth muscle actin suggesting differentiation toward myoepithelial cells.	Kurokawa I	皮膚科
Br J Dermatol	Cutaneous horn can be a clinical manifestation of underlying sebaceous carcinoma.	Kitagawa H	皮膚科
Oncol Rep	Pinkus tumor may originate from intraepidermal eccrine ducts and proliferate in the dermis.	Kurokawa I	皮膚科
J Immunol	Human mast cell chymase cleaves pro-IL-18 and generates a novel and biologically active IL-18 fragment.	Omoto Y	皮膚科
In Vivo	Cytokeratin expression in trichilemmal carcinoma suggests differentiation towards follicular infundibulum.	Kurokawa I	皮膚科
J Int Med Res	Cytokeratin expression in subungual squamous cell carcinoma.	Kurokawa I	皮膚科
Oncol Rep	Keratin profiles may differ between intraepidermal and intradermal invasive eccrine porocarcinoma.	Kurokawa I	皮膚科
Br J Dermatol	Topical suplatast tosilate (IPD) ameliorates Th2 cytokine-mediated dermatitis in caspase-1 transgenic mice by downregulating interleukin-4 and interleukin-5.	Murakami T	皮膚科
Anticancer Res	Reduced heterochromatin protein 1-beta (HP1beta) expression is correlated with increased invasive activity in human melanoma cells.	Nishimura K	皮膚科
J Vasc Interv Radiol	Radiofrequency ablation for the treatment of unresectable lung metastases in patients with colorectal cancer: a multicenter study in Japan.	Yamakado K	放射線治療科
J Am Coll Cardiol	Detection of coronary artery stenosis with whole-heart coronary magnetic resonance angiography.	Sakuma H	中央放射線部
J Magn Reson Imaging	Apparent diffusion coefficient in malignant lymphoma and carcinoma involving cavernous sinus evaluated by line scan diffusion-weighted imaging.	Sakuma H	中央放射線部
J Neurol	Unusual MRI findings in primary central nervous system lymphoma presenting diffuse linear enhancements located in the perivascular space.	Maeda M	画像診断科
Clin Imaging	Recanalization and reversal of diffusion abnormalities and markedly reduced cerebral blood volume in a patient with transient ischemic attack.	Maeda M	画像診断科
J Neuroradiol	Reversible splenial lesion with restricted diffusion in a wide spectrum of diseases and conditions.	Maeda M	画像診断科
J Magn Reson Imaging	Apparent diffusion coefficient in malignant lymphoma and carcinoma involving cavernous sinus evaluated by line scan diffusion-weighted imaging.	Maeda M	画像診断科
Photomedicine and Laser Surgery	Griseofulvin Enhances the Effect of Aminolevulinic Acid-Based Photodynamic Therapy in Vitro.	Nomura J	歯科口腔外科
ONCOLOGY REPORTS	G3139 induces cell death by caspase-dependent and-independent apoptosis on human melanoma cell lines.	Inui M	歯科口腔外科
Oral Therapeutics and Pharmacology	A case of intractable chronic osteomyelitis of the mandible accompanied with pathologic fracture and tardive dyskinesia.	Nomura J	歯科口腔外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
INTERNATIONAL JOURNAL OF ONCOLOGY	Synergistic interaction of 5-aminolevulinic acid-based photodynamic therapy with simultaneous hyperthermia in an osteosarcoma tumor model.	Tagawa T	歯科口腔外科
口腔組織培養学会誌	顎下腺分離細胞でのPhosphodiesterase3の発現	清水 香澄	歯科口腔外科
Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol Endod	Relationship between magnetic resonance imaging and histopathologic findings in thrombosis in the oral and maxillofacial region:a case report.	Matsumura Y	歯科口腔外科
Oral Diseases	Pedunculated oncocytic carcinoma in buccal mucosa:immunohistochemical and ultrastructural studies.	Inui M	歯科口腔外科
日本口腔粘膜学会雑誌	舌痛症-臨床病態および治療-	中瀬 実	歯科口腔外科
ONCOLOGY REPORTS	Bax gene therapy for human osteosarcoma using cationic liposomes in vivo.	Tagawa T	歯科口腔外科
救急医学	肺循環の仕組みとその調節	丸山 一男	麻酔科
日本集中医会誌	急性肺傷害と好中球エラスターゼ	丸山 一男	麻酔科
CI研究28 (2006、第3・4号)	Image Fusionを用いた後頭蓋窩動静脈の描出	鈴木 秀謙	脳神経外科(救急部)
Nippon Rinsho (2006 Oct)	Image fusion of three-dimensional digital subtraction angiography and magnetic resonance imaging in the assessment of cerebrovascular disease.	鈴木 秀謙	脳神経外科(救急部)
脳卒中28, (2006)	3D DSA/MRI融合画像を用いたAVMの術前評価	鈴木 秀謙	脳神経外科(救急部)
Neuroradiology, (2007, Mar)	Preclinical testing of a new clot-retrieving wire device using polyvinyl alcohol hydrogel vascular models	朝倉 文夫	脳神経外科
Exp Neurol. (2006 Dec.)	Evidence of tumor necrosis factor receptor 1 signaling in human temporal lobe epilepsy	山本 章貴	脳神経外科
J Neurol (2006, Sep)	Cerebrospinal fluid ferritin in chronic hydrocephalus after aneurysmal subarachnoid hemorrhage	鈴木 秀謙	脳神経外科(救急部)
American Journal of urology, (April 2006)	Diffusion-Weighted MR Imaging in Carotid Angioplasty and Stent with Protection by the Reversed Carotid Arterial flow	朝倉 文夫	脳神経外科
脳卒中の外科(増刊号) 34, 2006	テネイシンCを用いた脳血管攣縮発生予測の可能性	鈴木 秀謙	脳神経外科(救急部)
Neurological Research, (2007, Jan)	Pole of image fusion combining three-dimensional digital subtraction angiography with magnetic resonance imaging in evaluation of unruptured cerebral aneurysms	鈴木 秀謙	脳神経外科(救急部)
Amyotrophic Lateral Sclerosis and Other Motor Neuron Disorders	Follo-up survey of patients with ALS-MND interviwed about self-determination.	Narita Y	医療福祉支援センター
Amyotrophic lateral Sclerosis and Other Motor Neuron Disorders	ALS patients and pressure sores on admission at a university hospital.	Hayashi T	医療福祉支援センター
J Gastroenterol	Features of early gastric cancer and gastric adenoma by enhanced-magnification endoscopy.	Tanaka K	光学医療診療部
Gastroenterological Endoscopy	Endoscopic Submucosal Dissectionにおける酢酸併用拡大内視鏡の有用性	田中匡介	光学医療診療部

計 127 件

(様式第12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 内田 淳正			
管理担当者氏名	中央放射線部長 総務課長 安全管理室長	竹田 寛 小川 幹夫 竹田 寛	薬剤部長 医療サービス課長 医療福祉支援センター長	奥田 真弘 大城 雅彦 成田 有吾

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約		各診療科	カルテは、外来：一患者各診療科カルテ、入院：一患者共通カルテ方式をとっている。 カルテは、①外来患者は外来カルテ庫、②入院患者は入院中は各科病棟、退院後は病歴室に保管。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
	高度の医療の提供の実績	医療サービス課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医療サービス課	
	高度の医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医療サービス課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医療サービス課 薬剤部	
安規全則第9条の2の3及び第11条各号に掲げる	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療サービス課 安全管理室	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療サービス課 安全管理室	
	当該病院内に患者からの相談に適切に応じる体制の確保状況	医療サービス課 医療福祉支援センター	
	医療に係る安全管理のための指針	医療サービス課 安全管理室	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	総務課 医療サービス課 安全管理室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	総務課 医療サービス課 安全管理室	
	医療機関内の事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療サービス課 安全管理室	

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 内田淳正
閲覧担当者氏名	総務課長 小川幹夫
閲覧の求めに応じる場所	医学部第二会議室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	67.7%	算定期間	平成18年 4月 1日～平成19年 3月31日
算 出 根 拠	A: 紹介患者の数	8,916人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	7,919人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	295人	
	D: 初診の患者の数	17,394人	

(様式13-2)

規則第9条の23及び第11条各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (2名)・無																					
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (2名)・無																					
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無																					
<p>・所属職員 専任(2名)兼任(11名)</p> <p>・活動の主な内容: 安全管理部(危機管理委員会として平成12年6月12日設置、平成13年6月19日安全管理委員会に名称変更、平成14年4月1日同委員会を廃止し、安全管理室を設置、平成19年1月安全管理部に改組) 病院内における医療事故の防止及び医療の安全性の確保のため、安全且つ適切な医療体制を確立する。</p>																						
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有 ・ 無																					
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 ・ 無																					
<p>・指針の主な内容</p> <table><tr><td>○安全管理に関する基本的な考え方</td><td>別添資料</td><td>1</td></tr><tr><td>○医療に係る安全管理のための指針</td><td>別添資料</td><td>2</td></tr><tr><td>○安全管理に係る組織図</td><td>別添資料</td><td>3</td></tr><tr><td>○医療問題対策委員会内規</td><td>別添資料</td><td>4</td></tr><tr><td>○安全管理部内規</td><td>別添資料</td><td>5</td></tr><tr><td>○重大インシデント発生時の院内連絡体制</td><td>別添資料</td><td>6</td></tr><tr><td>○医療の質・倫理検討委員会規程</td><td>別添資料</td><td>7</td></tr></table>		○安全管理に関する基本的な考え方	別添資料	1	○医療に係る安全管理のための指針	別添資料	2	○安全管理に係る組織図	別添資料	3	○医療問題対策委員会内規	別添資料	4	○安全管理部内規	別添資料	5	○重大インシデント発生時の院内連絡体制	別添資料	6	○医療の質・倫理検討委員会規程	別添資料	7
○安全管理に関する基本的な考え方	別添資料	1																				
○医療に係る安全管理のための指針	別添資料	2																				
○安全管理に係る組織図	別添資料	3																				
○医療問題対策委員会内規	別添資料	4																				
○安全管理部内規	別添資料	5																				
○重大インシデント発生時の院内連絡体制	別添資料	6																				
○医療の質・倫理検討委員会規程	別添資料	7																				
⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況																						
<p>○医療問題対策委員会 年11回(平成18年度)</p> <p>○医療の質・倫理検討委員会 年6回(平成18年度)平成18年10月設置</p> <p>○安全管理部会議 年21回(平成18年度)</p> <p>○リスクマネージャー会議 年6回(平成18年度)</p> <p>・活動の主な内容</p> <p>○医療問題対策委員会 医療法制に関する事項、医療事故の予防に関する事項、医療事故発生時の対策に関する事項、医療紛争の処理に関する事項及び医療訴訟に関する事項の審議を行う。</p> <p>○医療の質・倫理検討委員会 死亡例及び重症合併症例の診療の質の検討、先端医療、終末期医療、治療拒否、移植医療、その他診療における倫理的問題について審議する。</p> <p>○安全管理部会議 インシデントレポートの収集と管理、報告された事故の原因や状況の分析、原因分析の結果を踏まえて事故発生の防止策と事故発生後の対応策を講じ、必要な情報を現場のス</p>																						

スタッフにフィードバックする。

また、医療事故防止に係る病院内の巡視・点検・評価に関する事、医療事故防止にかかわる業務改善の提言・指導に関する事、安全管理に係わる教育・研修・啓発に関する事、医療事故防止対策マニュアルに関する事、ヒヤリハットニュースの発行に関する事、リスクマネージャー会議に関する事。

○リスクマネージャー会議

医療問題対策委員会及び安全管理室会議において決定した事故防止策・対応策等の必要な情報を医療現場に周知徹底させる。

⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況

年 25 回

研修の主な内容：

区 分	主な研修内容	対 象	開催回数
1. 職員安全研修①	院内安全研修 麻薬の取り扱いについて	全職員	年 3 回 (延べ 8 回)
職員安全研修②	救急医療におけるリスクマネージメント (医療安全)	全職員	
職員安全研修③	結核の院内感染対策 (感染対策研修を兼ねる)	全職員	
2. 新採用者研修 安全研修①	医療安全研修	4月採用の研修医	年 3 回
安全研修②	医療安全研修	4月採用の研修医	
安全研修③	リスクマネージメントの基本	4月採用の看護師	
3. 職種別研修 安全研修①	医療事故防止の現状と取り組み	4月新任師長・副師長	年 8 回 (延べ 13 回)
安全研修②	リスクマネージメント	放射線技師	
安全研修③	看護師の法的責任	レベル2看護師 (ラダーレベル2)	
安全研修④	医療KYT (危険予知トレーニング)	レベル2 看護師 (ラダーレベル2)	
安全研修⑤	医療KYT (危険予知トレーニング)	看護師	
安全研修⑥	KYT (危険予知トレーニング)	セーフティナース	

安全研修⑦	栄養部における安全管理	栄養士	
安全研修⑧	レベル2・安全管理研修 「薬剤管理」	薬剤師	
4. RM研修	活動報告 安全管理室長より「RMに期待するもの」等の講義 ヒヤリハット報告書の分析結果	RM	年1回
⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関内における事故報告等の整備 . (<input checked="" type="radio"/>) ・ 無) ・その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○ヒヤリハットニュースを発行(月1回及び必要に応じて随時)し、リスクマネージャー会議を開催(年6回)することにより、リスクマネージャーを通じて、インシデントレポートから積極的に収集した情報並びに医療問題対策委員会及び安全管理室において決定した事故防止策・対応策等の必要な情報を医療現場に周知徹底する。 ○各医療現場のリスクマネージャーにより、医療事故の原因及び防止方法並びに医療体制の改善方法について独自に検討及び提言を行う。 ○各医療現場のリスクマネージャーにより、独自に事故防止のための研修会及び勉強会を開き、医療事故防止のための啓蒙活動を行う。 			

安全管理に関する基本的な考え方

三重大学医学部附属病院の基本理念

1 患者様本意の医療

患者様の信頼と満足が得られる最高・最良の医療を安全に提供します。

2 地域と世界の医療への貢献

地域医療に貢献し、医学・医療の国際交流に努めます。

3 臨床研究と人材育成の促進

未来を拓く臨床研究を推進し、次代を担う優れた医療人を育成します。

医学・医療の根元的目標は、健康を守り増進させ病を癒すことです。高度先進医療機関で教育と研究をも担っている大学病院も例外ではなく、最も基本的な使命は、患者様に最高・最先端の医療を「安全第一に」提供することです。

本院では、この使命と基本理念に沿って「患者様自身の自己決定権と地域社会のニーズを尊重し、高度先進医療からプライマリーケアまで、心温まる患者様中心の全人的・総合的・学際的医療を提供する」ことを目標に掲げ、診療活動に携わっています。また診療活動を通じて、高度な倫理観に裏打ちされた優れた医療人の育成を目指しています。

しかし近年は、医療の現場で生命を脅かすような事故や院内感染が多発し、社会的に大きな問題になっています。これらの多くは大学病院や地域の中核病院であり、複雑で困難な病気を持った患者様の受け皿となって高度医療を実践し、研修医や若い医療スタッフの養成にも大きなエネルギーを注いでいる医療機関です。複雑な医療を実践しているこのような大病院では、大きな事故が発生しやすいリスクは必然的に高くなりますので、安全管理には一層力を入れる必要があります。

本院では平成 12 年 10 月に発生した輸血事故を契機に、それまでの安全管理体制を大幅に見直しました。その結果、ミスや事故を起こさない個人を養成する教育だけでは不十分であるとの認識のもとに、たとえ個人のレベルでミスが発生しても、それが大きな事故に進展しない安全着地装置をシステムとして構築する、という二面作戦に切り替えました。

つまり、「ミスは何時でも、何処でも、誰にでも起こる」ということを前提に、「ミスは人の常、安全は組織の知恵」という思想に立脚した安全管理体制の構築です。それを組織的に保証する機関として平成 14 年度に「安全管理室」を設置し、診療担当副院長を責任者にして、専任の医師と看護師長を配置しました。安全管理室がリーダーシップをとって、「ミスを起こさない個人を育成する」職員研修、「個人のミスをチームとしてカバーし事故に進展させない」ためのチームづくりとリーダーであるリスクマネージャーの養成を実施し、病院全体として「ヒヤリハット報告」の活用、「ミスを事故に発展させない」システムづくり、さらに問題発生時の迅速な対応と予防対策に取り組むことができるようになり、本院の安全管理システムは飛躍的に強化されました。

今後も気を緩めることなく、全職員が一丸となって安全管理体制に取り組み、患者様にもご協力いただいて、良質で最高水準の高度医療を安全に提供することにより、信頼され満足いただける医療を築いていきたいと思っております。

平成 16 年 9 月 病院長

第一章 三重大学医学部附属病院医療に係る安全管理のための指針

第1 安全管理に関する基本的な考え方

安心できる医療環境のもとで良質で高度な医療を適切に提供することは三重大学医学部附属病院の理念であり、その根幹をなすものは「安全性」の確保である。未然に事故を防止することは医療機関の責務であり、特定機能病院には一般病院以上に安全管理体制の整備・充実が求められている。

このために、安全管理に関する院内の責任体制を明確にし、「良質で高度な医療の提供」に際して求められる安全確保のための指針を制定する。

第2 安全管理のための委員会、その他医療機関内の組織に関する基本的事項

- 1 医療に係る安全管理体制の最高決定機関として安全管理に関わる部門の責任者等で構成する三重大学医学部附属病院医療問題対策委員会（以下「医療問題対策委員会」という。）を置き、病院長を委員長とし委員で構成する委員会を月1回以上開催する。医療問題対策委員会に関し必要な事項は、三重大学医学部附属病院医療問題対策委員会内規に定める。
- 2 安全管理推進の確保のため、ゼネラルリスクマネージャー及びその他各部門の安全管理責任者等で構成する三重大学医学部附属病院安全管理室（以下「安全管理室」という。）を置く。室員で構成する安全管理室会議を月2回以上開催する。安全管理室に関し必要な事項は、三重大学医学部附属病院安全管理室内規に定める。
- 3 医療に係る安全管理を専任で行う者としてゼネラルリスクマネージャーを置く。ゼネラルリスクマネージャーの業務等については、三重大学医学部附属病院安全管理室内規に定める。
- 4 医療現場での事故防止、安全管理の中心的な役割を担う者として、院内各部門にリスクマネージャーを置く。
- 5 医療の現場で具体的な安全対策を推進し、安全性の高い医療を提供するために安全管理室の下にリスクマネージャー会議を定期的で開催する。リスクマネージャー会議に関し必要な事項は三重大学医学部附属病院安全管理室内規に定める。
- 6 患者様等から苦情、相談に適切に応じる体制を確保するため三重大学医学部附属病院医療福祉支援センター（以下「支援センター」という。）を設置し、その活動を本院の安全対策等の見直しに活用するものとする。
支援センターの活動の趣旨、設置場所、担当者及びその責任者、対応時間等については、院内に明示し周知を図る。
その他、支援センターの設置に関し必要な事項は三重大学医学部附属病院医療福祉支援センター規程に定める。

- 7 その他本院における医療に係る安全管理体制に関し必要な事項は三重大学医学部附属病院安全管理室内規に定める。

第3 安全管理のための職員研修に関する基本方針

- 1 医療の安全管理のための職員研修（以下「研修」という。）は全職員を対象として年2回以上開催する。必要に応じ医療に係る安全管理のための基本的考え方及び具体的方策について職員に周知徹底を行うことで個々の職員の安全に対する意識、安全に業務を遂行するための技能やチームの一員としての意識向上を図る。
- 2 研修参加者の学習達成の評価とともに具体的・現実的な目標を定め、目標達成の観点から評価する。
- 3 研修の実施内容や参加状況を記録に残し、それらの記録の積み重ねから研修の質的充実を図る。
- 4 その他研修に関し必要な事項は、安全管理室で定める。

第4 医療機関内における事故報告書等の医療に係る安全確保のための改善策に関する基本方針

安全管理室は、あらかじめ定められた手順により報告されたインシデントや医療事故及び他機関での医療の安全管理に関する事例の収集・分析に基づき、医療の安全管理の問題点を把握し病院全体の医療の安全管理や改善策の具体的な実践を指導監督するとともに、その実施状況を評価する。

第5 医療事故等発生時の対応に関する基本方針

- 1 本院において医療事故が発生した場合、当事者は必要と考えられる医療上の最善の処置を講じ、患者様及び御家族等に誠実に適切な対応をするとともに、あらかじめ定められた手順により速やかに病院長に報告しなければならない。
- 2 安全管理室会議で医療事故と判定された場合の報告は、診療録や看護記録に基づき作成するものとする。
- 3 医療事故等発生時の報告・対応に関し必要な事項は別に定める。

第6 患者等に対する当該方針の閲覧に関する基本方針

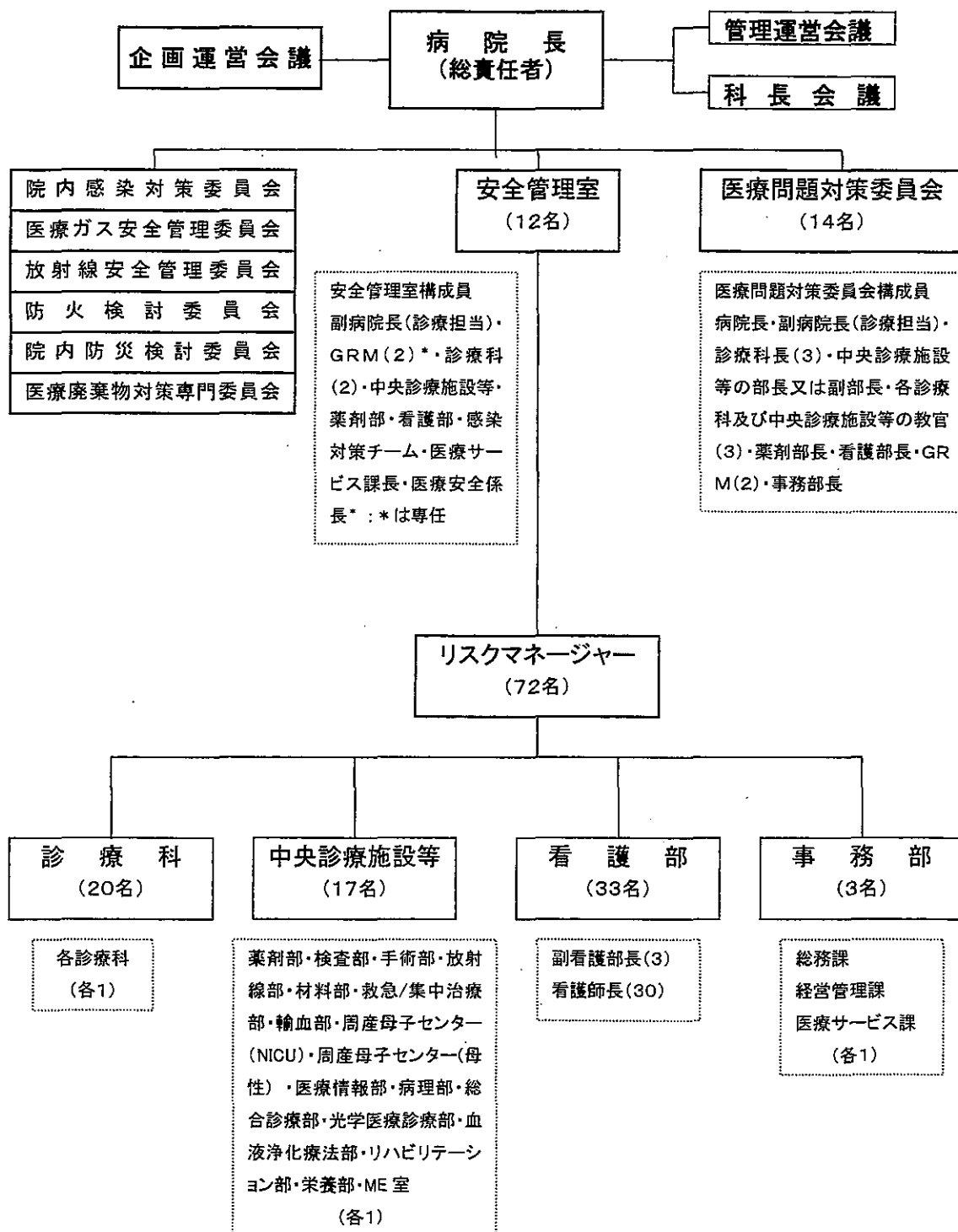
患者等が指針の閲覧を希望する場合は、閲覧に供する。

第7 その他医療安全の推進のために必要な基本方針

- 1 安全管理室は各診療科等に共通するリスクマネジメントマニュアル（以下「マニュアル」という。）を、また、各診療科等はそれぞれの部門に特化したマニュアルを作成し、関係職員に周知して医療事故等の防止を図るものとする。作成したマニュアルは常に見直しを行い随時改善するものとする。
- 2 医療の安全に関する広報紙の発行等により医療従事者に速やかに医療の安全に関する情報を提供する。
- 3 医療従事者の医療安全に関する意識向上を図るため、医療事故防止のためのポスターや標語を募集し、これらを院内に掲示することにより医療安全に関する患者等の理解の促進を図る。

5) 安全管理に係る組織図

(リスクマネージャーの配置状況等)



第1条 三重大学医学部附属病院（以下「病院」という。）は病院における医療事故の予防及び発生時の対応並びに医事紛争の処理に関し、常時、適切、かつ十分な行為を遂行していなければならない。

第2条 病院に医療問題対策委員会（以下「委員会」という。）を置く。

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 病院長
- 二 副病院長（診療担当）
- 三 診療科長のうちから 3名
- 四 中央診療施設等の部長又は副部長のうちから 1名
- 五 各診療科及び中央診療施設等の大学教員から推薦された者 3名
- 六 薬剤部長
- 七 看護部長
- 八 ゼネラルリスクマネージャー
- 九 事務部長
- 十 その他病院長が必要と認めた者

2 前項第3号、第4号及び第5号の委員は、病院長が任命する。

3 第1項第3号、第4号及び第5号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

第4条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 医事法制に関する事項
- 二 医療事故の予防に関する事項
- 三 医療事故発生時の対策に関する事項
- 四 医事紛争の処理に関する事項
- 五 医療訴訟に関する事項
- 六 その他必要と認めた事項

第5条 委員会に委員長を置き、病院長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員が、その職務を代行する。

第6条 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を出席させ、その意見を聴くことができる。

第7条 委員会は、必要に応じて特別委員会を設置することができる。特別委員会の構成等については、その都度委員会において定める。

第8条 委員会の庶務は、病院事務部医療サービス課において行う。

附 則

この内規は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成18年4月1日から施行する。

三重大学医学部附属病院安全管理部規程

(趣旨)

第1条 この規程は、三重大学医学部附属病院規程第15条第6項の規定に基づき、三重大学医学部附属病院安全管理部（以下「安全管理部」という。）の組織及び業務について必要な事項を定める。

(目的)

第2条 安全管理部は、高度医療を提供する大学附属病院に求められている医療事故の防止及び医療の安全性の確保のため、病院長のもとに強い実行力を発揮し、安全かつ適切な医療体制を確立することを目的とする。

(業務)

第3条 安全管理部は、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 「ヒヤリ・ハット報告書」の収集・調査・防止対策及び防止対策の周知徹底に関すること。
- 二 医療事故防止・安全管理に係わる病院内の巡視・点検・評価に関すること。
- 三 医療事故防止・安全管理に係わる業務改善の提言・指導に関すること。
- 四 安全管理に係わる教育・研修・啓発に関すること。
- 五 医療事故防止対策マニュアルに関すること。
- 六 リスクマネージャー会議に関すること。
- 七 その他医療の安全管理に関すること。

(職員)

第4条 安全管理部に、次の各号に掲げる職員を置く。

- 一 部長
- 二 副部長
- 三 ゼネラルリスクマネージャー 2名
- 四 感染制御部の副部長及び看護師長
- 五 診療科から推薦された者 1名
- 六 中央診療施設等から推薦された者（医療情報部及び感染制御部を除く。） 2名
- 七 医療情報部から推薦された者 1名
- 八 薬剤部から推薦された者 1名
- 九 看護部から推薦された者 1名
- 十 医療サービス課長
- 十一 事務系の職員 若干名

(任期)

第5条 前条第5号から第9号までの職員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、職員に欠員が生じた場合の補欠の職員の任期は、前任者の残任期間とする。

(ゼネラルリスクマネージャー)

第6条 ゼネラルリスクマネージャーは、医師及び看護師長をもって充てる。

- 2 ゼネラルリスクマネージャーは、安全管理部専任とする。

(リスクマネージャー会議)

第7条 安全管理部のもとにリスクマネージャー会議を置く。

- 2 リスクマネージャー会議は、部長が招集し、その議長となる。
- 3 リスクマネージャー会議は、ゼネラルリスクマネージャー及び次のリスクマネージャーをもって構成する。
 - 一 各診療科から推薦された者 各1名
 - 二 薬剤部、中央検査部、中央手術部、臨床麻酔部、中央放射線部、中央材料部、救急部、輸血部、周産母子センター（母性）、周産母子センター（NICU）、集中治療部、医療情報部、病理部、総合診療部、光学医療診療部、血液浄化療法部、リハビリテーション部、栄養管理部及びME室から推薦された者 各1名
- 三 副看護部長
- 四 看護師長

- 五 総務課，経営管理課及び医療サービス課より 各1名
- 4 リスクマネージャーは，次の各号に掲げる業務を行う。
 - 一 「ヒヤリ・ハット報告」の積極的な収集並びに医療問題対策委員会及び安全管理部において決定した事故防止策・対応策等の必要な情報を医療現場に周知徹底する。
 - 二 各医療現場において，医療事故の原因及び防止方法並びに医療体制の改善方法について，独自に検討及び提言する。
 - 三 各医療現場において，独自に事故防止のための研修会及び勉強会を開き，医療事故防止のための啓蒙活動を行う。
 - 四 その他医療事故の防止に関すること。
- 5 第3項に規定するリスクマネージャーは，病院長が任命する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか，安全管理部に関し必要な事項は，別に定める。

附 則

- 1 この規程は，平成19年1月1日から施行する。
- 2 三重大学医学部附属病院安全管理室内規（平成16年4月1日制定）は，廃止する。
- 3 この規程の施行の際現に廃止前の三重大学医学部附属病院安全管理室内規（平成16年4月1日制定）第4条第3号から第8号までの職員である者は，この規程の第4条第4号から第9号までの職員とみなし，その任期は，第5条の規定にかかわらず，従前の残任期間とする。

附 則

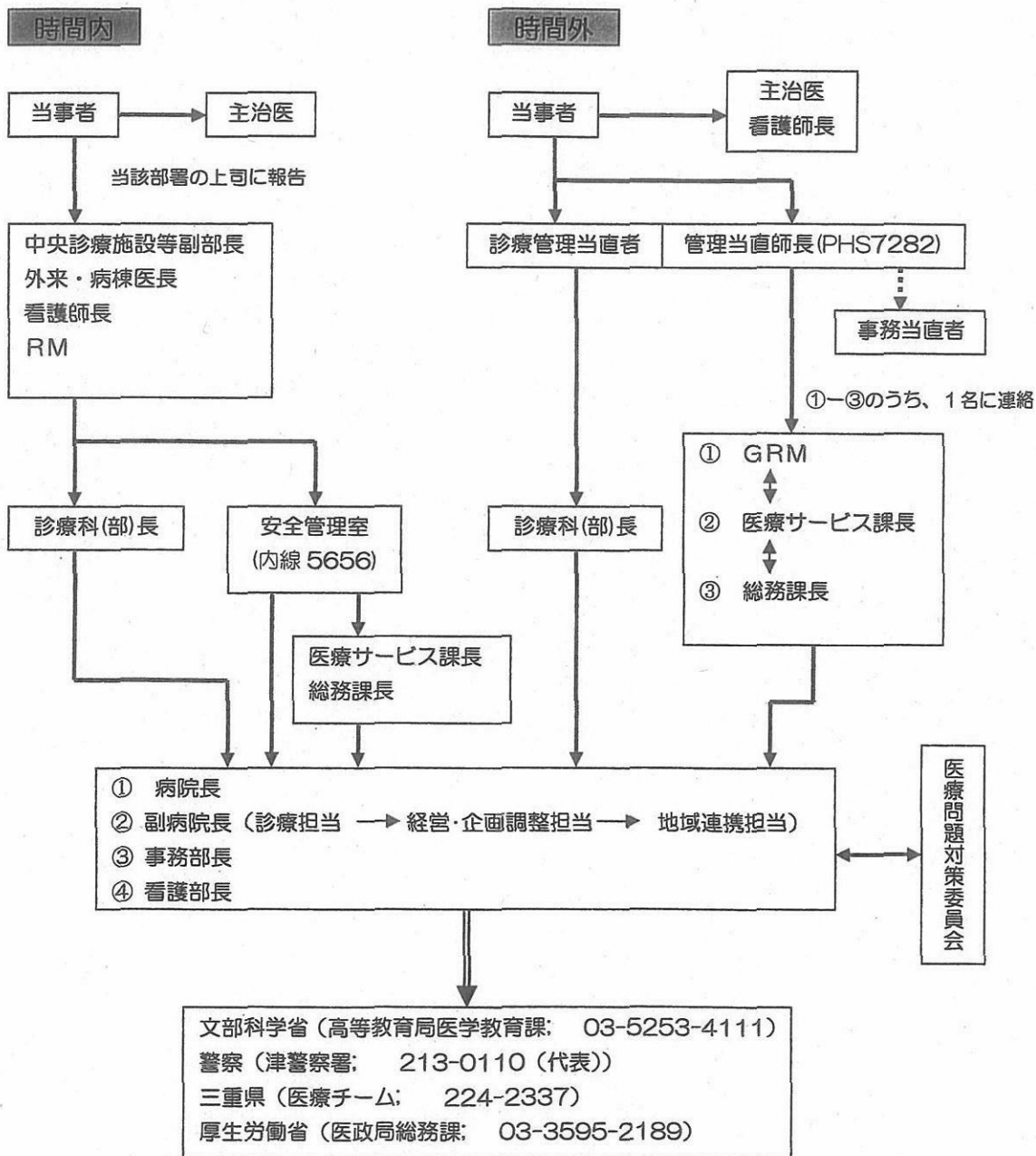
この規程は，平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は，平成19年5月2日から施行し，平成19年4月1日から適用する。

重大インシデント発生時の院内連絡体制

重大インシデントが発生した場合は患者様への対応を最優先し、下記の連絡体制により、口頭で直ちに報告すること。ヒヤリ・ハットレポートは現場が落ち着いてからの提出でよい。



(設置)

第1条 三重大学医学部附属病院に、三重大学医学部附属病院医療の質・倫理検討委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- 一 死亡例及び重症合併症例の検討等診療の質に関する事。
- 二 先端医療、終末期医療及び治療拒否における倫理的問題に関する事。
- 三 移植医療における倫理的問題に関する事。
- 四 その他診療における倫理的問題に関する事。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 病院長
 - 二 副病院長
 - 三 病理部長
 - 四 薬剤部長
 - 五 看護部長
 - 六 副看護部長 1名
 - 七 診療科（精神科神経科を除く。）の常勤医師 2名
 - 八 精神科神経科及び臨床麻酔部の常勤医師 各1名
 - 九 安全管理部のゼネラルリスクマネージャー
 - 十 医療福祉支援センターの医療ソーシャルワーカー
 - 十一 三重大学大学院医学系研究科・医学部研究倫理委員会附属病院部会部会長
 - 十二 事務部長
 - 十三 医療サービス課長
 - 十四 倫理・法律分野の有識者 若干名
 - 十五 その他委員会が必要と認めた者
- 2 前項第14号の委員は、学外者又は三重大学大学院医学系研究科、医学部及び医学部附属病院以外の部局に属する者とする。
- 3 第1項第7号、第8号、第14号及び第15号の委員は、病院長が任命又は委嘱する。

(任期)

第4条 前条第1項第7号、第8号、第14号及び第15号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員により補充された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び開催)

第5条 委員会に委員長を置き、病院長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。
- 4 委員会は、原則として毎月1回開催する。ただし、委員長が必要と認めたときは、臨時に委員会を招集することができる。

(申請手続)

第6条 第2条各2号から第4号に掲げる事項の審査を希望する者（以下「申請者」という。）は、倫理審査申請書（別紙様式第1）に必要事項を記入し、関係書類を添えて、所属の診療科長又は中央診療施設等の部長（以下「所属長」という。）を経て病院長に提出しなければならない。

(会議)

第7条 委員会は、委員の過半数の出席により成立する。ただし、特に重要な事項については、3分の2以上の出席を必要とする。

- 2 委員会の議事は、出席委員全員の合意によるものとする。
- 3 第1項及び前項の規定にかかわらず、委員が審査対象となる事項の申請者又は所属長であるときは、当該事項に係る審査に参加することができない。

(委員以外の者の出席)

第8条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を出席をさせ、意見又は説明を聴くことができる。

(審査結果の通知)

第9条 病院長は審査結果を審査結果通知書(別紙様式第2)により申請者に通知するものとする。

(実施状況の報告)

第10条 申請者は、前条の通知に基づき実施した内容について、実施状況報告書(別紙様式3)により所属長を経て病院長に報告しなければならない。

(庶務)

第11条 委員会の庶務は、医療サービス課において処理する。

(雑則)

第12条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成18年10月4日から施行する。
- 2 この規程の施行後最初に任命又は委嘱される第3条第1項第7号、第13号及び第14号の委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、平成20年3月31日までとする。

附 則

この規程は、平成19年1月1日から施行する。

附 則

- 1 この規程は、平成19年5月2日から施行し、平成19年4月1日から適用する。
- 2 この規程施行の際現に改正前の第3条第1項第7号の委員である者は、この規程の第3条第1項第7号及び第8号の委員とみなし、その任期は、第4条の規定にかかわらず、従前の残任期間とする。